



原田全修議員

問

- ・川根町は4月から「島田市川根町」となる
- ・新島田市ほか周辺自治体との今後の行政運営の連携を如何に図るか

質問

行政運営の連携

について 4月から町の隣接自治体は静岡、浜松、島田の3市となる。"陸の孤島"とならないよう周辺自治体に対する連携への働きかけが重要ではないか。

町長

吉田町を含めた島田・榛原地区広域市

町村圏協議会、島田・川根地域活性化連絡協議会は引き続き継続。島田市を中心に空港開港を目指した大井川観光連絡会等の再編など現在協議中。

質問

道路交通事情改善への働きかけについて

町長 静岡市・川根町間国道バイパス建設促進期成同盟会と、平成20年度に立ち上げる予定の春野町く下長尾間の整備促進同盟会で国道362号の整備促進を要望していく。島田市長を会長とした御前崎・奥大井連絡道路整

備促進期成同盟会では国道473号の瀬沢から南の狭隘箇所を拡幅や久野脇と地名間のバイパス建設など要望活動を行っていく。現在ではまだ構想の段階である寸又に対するバイパス工事については、局所改良等をお願いしている。渋滞対策としては交通誘導員の配置等を行いながら極端な渋滞が発生しないよう配慮していく。

質問 情報・通信インフラの整備について 当町の財政シミュレーションでは、平成22、23年度でブロードバンド構想に12億円という



新装した「島田市川根町支所」

膨大な投資計画が描かれているが、特に島田市等流域の連携が図れるような情報インフラの設計が重要で過剰投資は避けねばならない。

町長 本年度に川根町地域情報化計画および川根本町光ファイバー整備構想の策定を行っているが、島田市とは連絡を取り合い策定している。国交省や中電の光ファイバー網の接続や通信会社の参入が可能か等調査研究しているところ。

質問

地場産業の振興について

町長 静岡空港の開港を茶業の消費拡大の好機として捉え販売促進事業の実施に向け志太・榛原地域関係者との協議を進めていく。「川根お茶街道」という川根地域の生産・加工・流通関係者、J Aも加わった組織を通じてブランド力のアップ

を図っていく。大井川観光連絡会等の広域の連携の中で観光ルートづくりを検討していく。

質問 農山村活性化プロジェクト支援交付金での「てん茶加工・販売事業」の立ち上げについて ホームページでの資料では、てん茶加工施設は「(株)茶和希」が受け持つ、てん茶の販売等に「川根抹茶マーケティング研究会」が担当するとなっている。このプロジェクトの計画主体と事業の推進体制を伺う。

産業課長

計画主体は自治体である。川根町としてはJ A、県とともに意欲のある農家に対しての支援をしている。事業の推進は農家であるが、推進計画に対しては行政、J Aが支援をする。

町長 川根高校との中高連携の一体性について 島田市側とはどの

ような調整をしてきているのか。

町長 合併後の島田市においても、川根地域の特性を重視し川根高校後援会助成などとともに、従前と変わらぬ事業支援と連絡協議会組織への参加を継続することになっている。

答

- ・志太・榛原地区は合併でさらに変貌を遂げる
- ・従来の市町連携を脱した新たな連携の仕組みの中で対応する